

山岳科学総合研究所 友の会会報

2014年1月 第12号



化粧柳の梢が鮮やかな梓川と穂高連峰

もくじ

年頭のごあいさつ	2
第11回上高地現地研修会 報告 島村芳太郎	2
会員交流会および第5回憧憬の森講演会	3
会員リレーコラム	6
・澤田 義幸 「木曾御嶽山参拝」	
・本家 保治 「新春ハイキング」	
上高地クエスチョン	8
編集後記	8

年頭のごあいさつ

友の会の皆様 新年あけましておめでとうございます。

2014年の初春を迎え、皆様方の御多幸と御健康を心よりお祈り申し上げます。

昨年度を振り返ってみますと、友の会の行事はとても有意義で、素晴らしい体験に感動の一年でした。

5月中旬の好天の中、1泊で木曾御嶽にでかけ、中身の濃い研修と散策ができました。

8月下旬、25名の山好きな皆様と2泊3日の鳥海山登山、とても大きな山で疲れましたが、おいしい海の幸と地酒をたらふくいただき、忘れられないバス旅行でした。

11月の明神ステーションでの大人キャンプは、いろりばたで火を囲みながらの懇親会でした。特に中庭の外テーブル、長イスを仁作さんが立派な材を運び込み、皆様のお手伝いいただきながら、とても素敵なテラスができ上がりました。陽気の良い頃に中庭で友の会のパーティーをぜひやりましょう。

さて、山の日制定（全国的には8/11、長野県は7月第4日曜日）の機運が盛り上がってきております。健康ブームの中、中高年益々元気で、若者も増え山が活気にあふれてゆく予感のする明るい年にしたいと願っております。

本年も各種事業を展開してまいりますので、会員の皆様のあたたかい御協力と御指導をお願い申し上げます。

友の会会長 山口 孝

第11回上高地現地研修会 報告

2013 シーズン・上高地に感謝を込めて

10月26日（土）・27日（日）の予定が台風接近のため延期となり、11月2（土）・3日（日）の実施となった。

11月2日は、アルペンホテルに11:20に集合して、猿の群れを見ながらロビーで歓談していると2Fの和室へと案内された。（たぶん1Fのレストランだと思っていたので想定外であった！）部屋に入ると、なんと三段重の豪華な和風弁当がセットされていた。まずは、地ビールで軽く喉をうるおしてからランチとなった。味、ボリュームには満足であった。

しばらく休憩した後、この時点で9名の参加者のうち7名が梓川の左岸道路（遊歩道）のゴミ拾いを開始。2名はステーションへ先行し、建物（有形登録文化財）の屋根塗装と、大人のキャンプの準備班とに分かれた。

やがて14:30頃には、ゴミ拾い班が到着した。回収したゴミは、ペットボトル、お菓子の包み紙等であった。“ゴミ談義”？をしていると、山口会長、初参加の宮田八郎氏（穂高岳山荘）と本日の紅一点で神谷圭子氏（蝶ヶ岳山荘オーナー）も合流し、全員（13名）が揃い、映像作家でもある宮田八郎氏の講演が始まった。穂高の稜線等で撮影された、ヘリコプター（SA31513、フランス製）、愛称は“ラマ”のフライト映像を鑑賞した。ベテランパイロットのアクロバットに近いフライトは、迫力満点であった。

講演後は、会場を囲炉裏のある建物に移動し、本日最大のお楽しみ交流会がはじまった。

まずは、赤々と燃える囲炉裏の上には“秋刀魚”が載せられた。ダイコンおろしとのコンビは格別だ。いつか岩魚留小屋で見た囲炉裏の情景をイメージした。様々なブランドの清酒、ワイン等が所狭しと置かれ、後半は山と海の幸の鍋を囲みながら、自己紹介がはじまる頃には、最高の盛り上がりとなり、明神での楽しい時間を満喫することが出来たことに感謝しています。

島村 芳太郎



会員集会並びに第5回憧懐の森講演会報告

本年最後の友の会の事業となりました、会員集会及び5回目となります「憧懐の森講演会」が、平成25年12月15日(日)、松本市旭の信州大学理学部A棟多目的ホールで開催されました。

会員集会では、今年度事業についての感想、反省点等を踏まえ、来年度事業に向けての要望、活動内容、開催希望場所等各会員から多くの意見、要望が出されました。意見、要望を運営委員会で再度整理した上で事業計画(案)を作成することが確認されました。

会員集会終了後、一般財団法人 長野県自家用自動車協会 専務理事の中嶋豊(なかじまゆたか)氏による「私と山の四方山話」と題した講演会を開催しました。

中嶋氏は元長野県警察地域部長(1996~98年、第9代長野県警山岳遭難救助隊長)を勤められ2013年3月に退職され、現職としてご活躍されています。

講演はパワーポイントを使用してスライドを見ながら行われました。流石、40年の登山歴と海外での山岳救助研修に参加した経験に加え、イラストマップの作成が物語るとおり、とても綺麗な写真が多くまた、丁寧に解り易く説明をしていただきました。

残念ながら参加できなかった会員の皆様にその概要をご紹介します。

(渡邊 修 記)



講師の中嶋 豊 氏



熱心に聞き入る会員

○最近の山岳事情について

- (1) 年齢層の広がり ・ 近年、中高年層から若年層に拡大、特に若い女性が増加し若い男性も多く、年齢を問わず山岳ブームになりつつある
- (2) 登山スタイルの変化 ・ 山中を走り回るトレイルランニングの増加・ ツアー登山の増加
・ 登山者の観光客化・ 山岳映画や女性タレントの登山番組増加
・ 雑誌・ 写真集に掲載される美しい風景やルートの紹介の影響
・ 女性、若い男性の服装、ファッション人気・ 装備品の改良、軽量化、レンタル化・ ブログ等での紹介・ テント場の状況、個人テントの増加
- (3) 安易な救助要請 ・ 遭難事故が多発し過去最多に・ 中高年者、特に高齢者の遭難事故が多発・ 自力救助ができず、ヘリによる救助が増加
- (4) 登山の目的は ①自然を楽しむ ②景色を見る ③ピークハント(頂上に登る)

(アンケート調査から) ④心や体の健康のため ⑤写真撮影

(5)情報の入手先 ①インターネット ②雑誌 ③口コミ ④登山用具店

(6)山を取り巻く各種の問題等

- ①山小屋のトイレやゴミなどの環境問題
- ②動物による食外(環境破壊)、人身被害(熊、猪)
- ③山自体の荒廃(台風・風水害、地震等による山崩れ、崖崩れ)
- ④登山者の立入りやストックによる登山道の荒廃
- ⑤登山道の維持管理(クサリやハシゴの設置)、責任問題(訴訟)
- ⑥外国人登山者(言葉や生活習慣の違い)に対する遭難防止対策

(7)遭難防止対策検討

- ・フォーラム等による継続的な広報活動
- ・有識者等による山岳遭難対策検討会(10月8日初会合)
- ・山岳遭難防止アドバイザーの委嘱(10月8日、3人を知事名で委嘱)

(8)その他

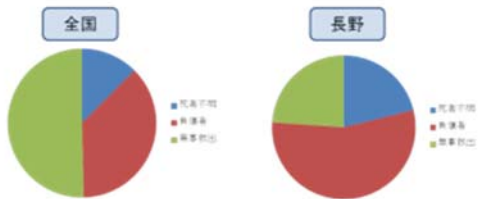
- ①「山の日」制定 8月11日?
- ②ふるさと信州寄付金
- ③入山料

※これらの項目中に様々なエッセンスが含まれています。テーマごとに考えてみてください

○山岳遭難の現状

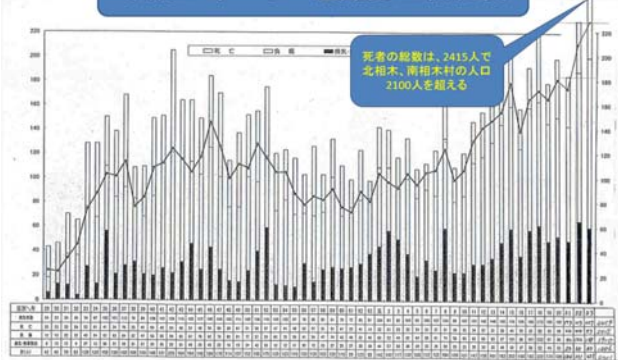
○全国の遭難事故(平成23年中)

区分	全国	長野	比率
発生件数	1830	227	12.4
死者不明	275	53	19.3
負傷者	819	138	16.8
無事救出	1110	60	5.4
遭難者計	2204	251	11.4

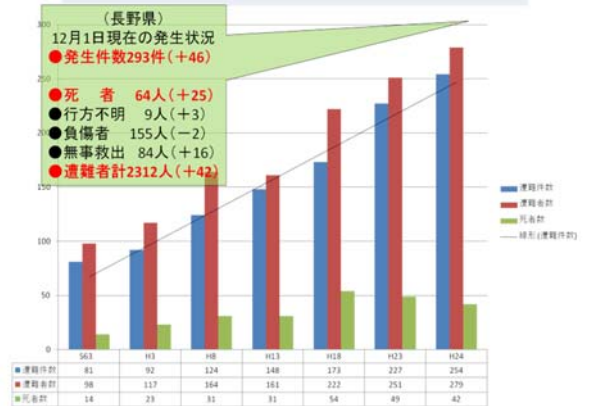


※長野県では、負傷者、死者不明が多いが、全国では無事救出の割合が大きい

平成29年からの遭難発生状況表



遭難発生件数と遭難者の推移(単位:件/人)



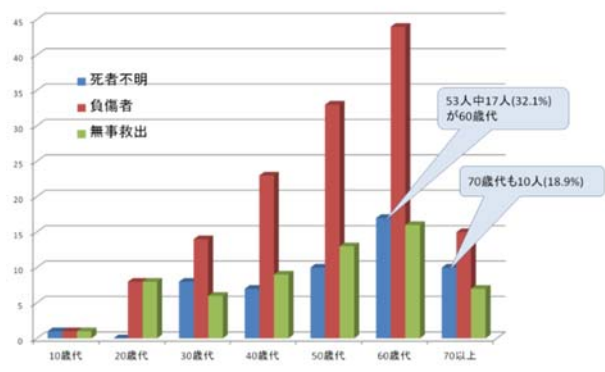
登山者数の比率と遭難事故の比率の比較～長野県



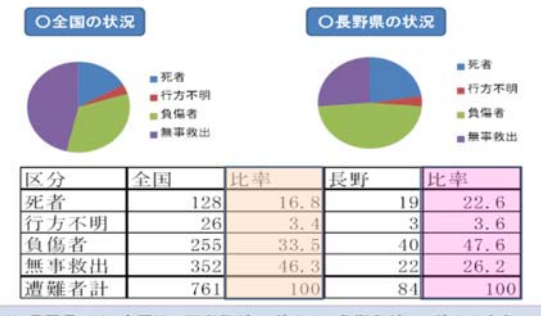
○登山者数に対して事故の発生状況を見ると
 ・槍穂高連峰
 ・常念山系
 ・八ヶ岳連峰
 の事故率が高い。



○ 年齢別発生状況 → 60歳代の遭難者が多数
登山者が多いので遭難も多数あるが...

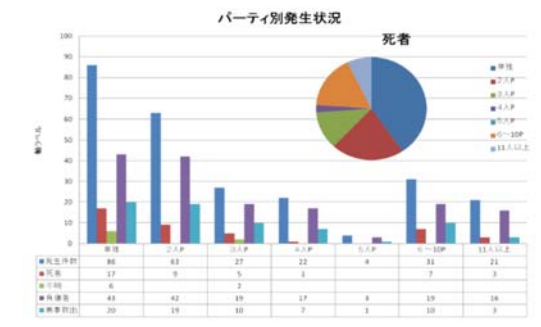


単独登山者の遭難発生状況(人員)の割合(H23年中)



※ 長野県では、全国比で死者数が5.8ポイント、負傷者が14.1ポイントも多い。逆に、無事救出は20.1ポイント少ない。

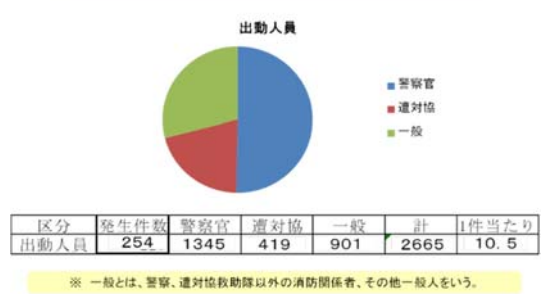
単独登山者の危険性(遭難の比率 H24統計)



長野県における平成24年中の遭難事故発生状況

- 発生件数
 - 発生件数=254件 遭難者=279人 (死者42、不明8、負傷159、無事70)
 - 3年連続で過去最多の発生
- 北アルプスで多発
 - 北アルプスが最多=165件(65%)
 - 次いで中央アルプス25件(9.8%)
- 原因は転落、滑落、転倒が多い
 - つまずき、転倒、転落が158件(62%)、死者29人
 - 次いで病気25件(9.8%)、疲労凍死傷23件(9.1%)
 - 道迷い19件(7.5%)の順
- 季節は夏8月に多発
 - 夏117件(死者・不明9)、秋66、春44、冬27件
- 中高年の遭難多発
 - 遭難者279人中219人(78.5%)、死者不明50人中46人
 - 60歳以上279人中130人(46.6%)
- 男女別では
 - 男200人(71.7%)、死者・不明34人(91%)
 - 女79人(28.3%)、死者・不明6人(9%)

警察官、遭対協隊員等の出動状況(H24)



まとめ

会員集会では一度決めた日程は変更しない。県内現地研修の場所、上高地ステーション利用の現地研修会で次の日も計画してほしい。また県外での登山研修の場所についての意見、若い会員を増やす手段など意見をいただきました。

講演会で中嶋さんは長年培われた知見と感性をもって「山岳」をテーマに様々な角度からお話をしてくださいました。

山岳遭難の現状に危機感をもっておいでで、山歩きは安全に楽しくをモットーとすべし、また、山岳=山楽=山学を関連づけて山をテーマに山で楽しみ山を学ぶ、それがいわばその人の人生を豊かにしてくれる。といったことに繋がるのではないのでしょうか。

このほか中嶋さんは独自の調査と繊細な筆致をもって、いくつもの山のイラストマップを作っておいでです。多芸に秀でた方だと改めて敬意を表し感謝を申し上げます。

なお、グラフ等は中嶋さんが講演会に使われたものの一部を許可をいただき掲載しました。縮小してありまして見にくいかもしれません。ご容赦ください。

さて、今回の講演会も私共「友の会」だからこそ開催し、貴重な話を聞くことができたと思います。これからも素敵な講師をお招きし、楽しい話をお聞きしたいと思えます。会員の皆様、講師として心当たりの方がおいででしたら是非ご紹介ください。

(仁)

リレーコラム



木曾御嶽山参拝

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、木曾御嶽現地研修会にお出かけいただきありがとうございました。

友の会会員のみなさまにとって良い年でありますようご祈念いたします。

さて、正月休みで頭が回っていない中、奥原事務局長さんより「澤田さん会報に原稿をお願いします。」とのありがたい（実はエライことだなあ〜）お電話をいただきこの原稿を書いています。

平成26年1月5日（日）快晴無風の穏やかな新春の日に、この一年が健やかに暮らせるよう御嶽山に参拝してきました。以下簡単に道中記を報告させていただきます。

午前8時30分5合目八海山 おんたけ2240スキー場 Gondola 山麓駅到着、まずは登山届ポスト確認、カードなし。私は木曾地区遭対協王滝班員でもあり年末年始の遭難防止活動の一環として、王滝班は毎年年末年始当番で Gondola 山麓駅、山頂駅、田の原などで遭難防止の啓発活動を行なっています。Gondola 事務所で、入山者の情報収集、今日の登山者は6.7名とのこと。Gondola に乗り山頂駅へ山頂駅の登山届ポスト確認、4枚提出あり。計9名日帰り登山の模様。



7合目 田の原(2180m)から御嶽頂上を望む

9時30分 7合目田の原発、積雪は50cm位か、吹きだまりで1m位、夏道沿いにトレイが付いておりその跡を行く。10時17分大江権現（旧7合目）到着、夏では30分ぐらいのところであるが、以外と時間がかかる。11時10分金剛童子到着、森林限界となるが、風もなく穏やかである。一休みし登山道沿いに進んでいく、道は吹きだまった雪が積もっている程度である。11時36分八合目避難小屋経過、2人下山してくる。12時28分富士見石到着、中央アルプス越しに富士山が見え始める。

13時9合目避難小屋到着ここでアイゼンを着ける。中央不動上で6人パーティが下山してくる。その後単独者下山してくる。13時30分王滝口頂上到着、4時間かかる夏の倍である。正月の飲みすぎか、運動不足か、快晴無風の天候のせいか汗をびっしょりかいての到着であった。ここに荷物を置きカメラだけを持ち剣ヶ峰を往復する。王滝頂上から剣ヶ峰は天気が良いとはいえ3000mを越えてくるので気温もさがり、風もあり寒く手袋をしているが指先が冷たい。14時剣ヶ峰到着登山者なし、奥社参拝後写真をと



8合目付近から田の原、三笠山、中央アルプスを望む

り14時15分下山開始、王滝頂上14時30分到着 ゴンドラ最終16時に間に合うようそそくさと下山する。 田の原15時45分到着、ここからゴンドラ山頂駅まで最後の登りとなる。スキー場のパノラマコースを登らず、三笠山を直登するが、新



剣ヶ峰 (3067m) から北アルプスを望む

雪にはまり悪戦苦闘するが、何とか抜け出し15時57分山頂駅到着ゴンドラ乗車、最終に間に合いほっと一息つく。今年の初登山は天候に恵まれ無事下山することができた。昨年11月から山に入る機会なく体がなまっておりきつい登山となってしまった。常日頃の節制と体力づくりの必要性を痛感（毎年ですが）しています。

冬の御嶽山王滝口は、おんたけ2240スキー場のゴンドラが営業している間は、容易に7合目田の原へ入ることができ天候がよければ日帰り登山や田の原周辺でのスノーシューが可能です。また、スキー場は標高が2240m~1600mに位置しており雪質も良いので快適なスキー、スノーボードが楽しめると思います。機会があれば一度お出かけください。まとまりのない文になりましたが以上です。 本年もよろしくお願ひします。



王滝口頂上 御嶽神社奥社



黒沢口頂上 御嶽神社奥社 (剣ヶ峰)

澤田 義幸

新春ハイキング

新年明けましておめでとうございます。

伊豆半島より初春のレポートをお届けします。

我が家では、お正月初詣を兼ねて「新春ハイキング」を続けています。家から山方向か海へ、今年は風がないので海に向かうことにしました。おにぎりとお茶をもって出発です。近くの神社に立ち寄り、別荘地の中を下って行きます。最近また新築が増えてきたようです。リタイヤ組が多くなったのかもしれませんが、春らしいものがないかと探していたら、ある家の庭先にレモンが成っていました。実が成っているのを見たことが有る人は少ないかもしれません。富戸(ふと)海岸ではダイバーが大勢います。ここ富戸は関東地方ダイビングの一大スポットで、漁業とダイビングの中心地になり漁業とダイビングスポーツが共存しています。このあたりの海岸線は4000年前大室山の噴火で流れ出た溶岩が海に到達してできた海岸です。断崖絶壁が続きそれに沿ってハイキング道が約10kmにわたり整備されています。途中に



は海にかかる吊橋、日蓮上人が流された岩礁、黒船に向けた砲台跡など見ながら歩いていきます。この海岸には根や磯に「いがいが根」「あぶな根」とか「おたつ磯」などのいろいろな名前がついており、さすが正月休みその多くのところで釣り人や「ロッククライマー」で賑わっていました。ある浜では、波によって削られてできたポットホールと球形穿孔岩体が波で転がるところを見物、溶岩特有の柱状節理が見事に見える波打ち際など変化に富んだところを楽しみながら歩きました。



勤務しているゴルフ場では早咲きの寒桜の花が開き出しました。信州はまだずっと先の事と思います。

本家 保治

? 上高地クエスチョン?

新年早々なんですが、上高地に公衆トイレは何か所あると思いますか？

11か所あります。(民間が設置したものは除く) どこにどうあるのか全て知っている方は「上高地通」です。急を要することもありますから、トイレの場所を頭に入れておくことも必要でしょうか。

これらのトイレ、開山の頃から徐々に開け、閉山に向け徐々に閉鎖していきます。

メインはバスターミナルトイレと、河童橋トイレです。因みに2013年度利用者は前者が約575千人、後者が約291千人だということです。

また、登山者や日帰り観光客用に4か所の冬季トイレ(大正池・中の瀬・ターミナル・小梨平)が用意されています。

最近日帰りの観光客が増えてきており、トイレ以外で用を足したりゴミや残飯の投げ捨てが目立つようになりました。

一面真っ白な世界を汚さないよう、歩車道以外に踏み込まないように心掛けていただきたいものです。

編集後記

寒い日が続いていますが皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

会報12号遅れておりましたがお届けします。

「継続とは力」と申しますが、何事も一定のレベルを維持して継続していくことはなかなか難しいものです。

会の運営や会報の発行も同じことで、発足当時の盛り上がりから徐々に衰微していくのは、言ってみれば「世の常」かもしれません。しかし、会の活動への参加や寄稿などでのかわりは、ささやかでも人生を豊かにしてくれるものだと思います。会員のみなさまの積極的なかわりをお願いいたします。

2014年度の事業計画では、当初からできるだけ実施日を決めて、より多くの会員のみなさまに参加していただけるようにしてまいります。また、提案などありましたら気軽に申し出てください。

(友の会会報編集委員会)

山岳科学総合研究所友の会会報 第12号

発行日：2014年1月20日

発行：山岳科学総合研究所友の会

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

信州大学山岳科学総合研究所友の会事務局

TEL：0263-37-2432 FAX：0263-37-2438

E-mail：ims-support@shinshu-u.ac.jp